

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Cover, Colophon and Contents

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-10-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1629

国立国語研究所論集

NINJAL Research Papers

16

2018年10月

October 2018

1. 刊行

国立国語研究所（以下、「研究所」という。）における研究活動の活性化と成果の公表及び所内若手研究者育成を目的として、『国立国語研究所論集』（英語名“NINJAL Research Papers”）を各年度に2回（原則として、7月と1月）発行する。

2. 投稿資格

投稿時に次のいずれかに該当する者とする。ただし、共著の場合は第1著者が次のいずれかに該当すればよい。

(1) 研究所の研究教育職員・研究員

(2) 研究所の客員教員、非常勤研究員・プロジェクト研究員、外来研究員、共同研究プロジェクトに参画している共同研究員（外来研究員及び共同研究員の場合は、それぞれ、受入れ教員及び参画している共同研究プロジェクトのリーダーに相談の上、投稿すること。）

(3) 研究所の名誉教授

(4) その他、国立国語研究所論集編集委員会（以下、「編集委員会」という。）が認めた者

(注)上記(1)(2)に該当する者が退職または任期終了した場合は、その後5年間は投稿資格を有するものとする。ただし、年度途中の退職または任期終了は、その年度末に発生したものとみなす。

3. 投稿時期

投稿原稿の締切は、毎年3月、6月、9月、12月の各10日とする。

4. 論文内容

(1) 投稿は未公開のオリジナルな原稿に限る。他誌に投稿中の原稿は投稿できない。

(2) 研究所の設置目的に沿う内容なら、理論・記述・調査・実験等の手法や分析の枠組みは問わない。ただし、「2. 投稿資格」の(2)に該当する者が投稿する場合は、内容は研究所在職中の研究内容・成果に限るものに限る。

(3) 研究所の研究教育職員・研究員及び非常勤研究員・プロジェクト研究員が投稿する場合は、原則としてNINJALサロンで発表し、そこでの指摘を反映させた原稿とする。また、共同研究員が投稿する場合は、原則として、参画している共同研究プロジェクトの研究発表会で発表し、そこでの指摘を反映させた原稿とする。

(4) 共同研究員が投稿する場合は、論文の内容は、共同研究プロジェクトの研究内容及び研究成果であること。（後略）

(5) 外来研究員が投稿する場合は、論文の内容は、滞在期間中の研究題目に関する研究内容及び研究成果であること。（後略）

(6) 研究の中間報告、既発表論文のデータ補足的な報告も可とする。

5. 原稿のカテゴリー

「論文」のみとし、研究ノートや書評紹介は含めない。

6. 原稿の書式等（略）

7. 原稿提出方法（略）

8. 著作権

著者は、原稿を投稿する際に、以下を承諾したものとする。

- ・個々の論文の著作権は著者に帰属する。
- ・著者は、論文の複製権と公衆送信権の行使を研究所に許諾する。
- ・その他「国立国語研究所における編集著作物の取扱いについて」に定められている事項。

なお、他の著作物に掲載された図版の転載等にかかわる著作権処理、及びデータの利用・公開にかかわる関係者の許諾取得は、著者の責任において行うこと。

9. 採否

原稿の採否は、編集委員会が査読の上、決定する。

10. 校正（略） 11. 稿料（略） 12. 抜刷等（略）

「投稿・執筆要領」の全文および『国立国語研究所論集』オンライン版は、
国立国語研究所ウェブサイトをご覧ください。

Please visit the NINJAL website. You can download (i) the entire text of the guidelines for
manuscript submission and the style sheet, and (ii) full-text PDF files published in *NINJAL*
Research Papers.

<https://www.ninjal.ac.jp/publication/papers/>

<https://repository.ninjal.ac.jp/>

編集委員会 Editorial Board *委員長 Editor-in-chief

福永由佳 (FUKUNAGA Yuka)

井上文子 (INOUE Fumiko)

三井はるみ (MITSUI Harumi)

新野直哉 (NIINO Naoya)

山崎 誠 (YAMAZAKI Makoto)*

国立国語研究所論集 第16号

NINJAL Research Papers No. 16

2018年10月31日 発行

編 集 国立国語研究所論集編集委員会

発 行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

TEL: 042(540)4300 (代表)

<https://www.ninjal.ac.jp/>

E-mail: papers@ninjal.ac.jp (編集委員会)

印刷所 中西印刷株式会社

会話における「そうしたら」と「そうすると」の使用状況

——『日本語日常会話コーパス』を題材に——

川端良子・伝 康晴

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』への情報構造アノテーションとその分析

宮内拓也・浅原正幸・中川奈津子・加藤 祥

Role of *yone* and *deshoo* in the Construction of Social Actions:

From an Epistemic and Affective Point of View

Fumiko NAZIKIAN

近代日本語における依存構文の発達

——構文はどのように発生・発達・定着するのか——

志波彩子

相互作用によるオノマトペの使用

——乳製品の試食会を例にして——

ポリー・ザトラウスキー

近世期資料におけるト書きの史的研究

——接続表現トの成立を中心に——

高谷由貴

徳之島浅間方言のアクセント資料 (7)

上野善道

時間的意味から空間的意味への意味変化の可能性

——「端境」の変遷を通して——

山際 彰

目 次 Contents

会話における「そうしたら」と「そうすると」の使用状況 ——『日本語日常会話コーパス』を題材に—— Usage of “soushitara” and “sousuruto” in Everyday Japanese Conversations: Analysis of the Corpus of Everyday Japanese Conversation	川端良子・伝 康晴 KAWABATA Yoshiko and DEN Yasuharu	1
『現代日本語書き言葉均衡コーパス』への情報構造アノテーションとその分析 宮内拓也・浅原正幸・中川奈津子・加藤 祥 Construction and Analysis of Information-Structure Annotation of the “Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese”	MIYAUCHI Takuya, ASAHARA Masayuki, NAKAGAWA Natsuko and KATO Sachi	19
Role of <i>yone</i> and <i>desboo</i> in the Construction of Social Actions: From an Epistemic and Affective Point of View 「よね」と「でしょう」のディスコース機能について ——認識的、心的観点から——	Fumiko NAZIKIAN ナズキアン富美子	35
近代日本語における依存構文の発達 ——構文はどのように発生・発達・定着するのか—— Development of Dependence Construction in Late Modern Japanese: How Does the Construction Emerge, Develop, and Flourish?	志波彩子 SHIBA Ayako	51
相互作用によるオノマトペの使用 ——乳製品の試食会を例にして—— On the Use of Onomatopoeia in Interaction: Examples from Japanese Dairy Taster Branches	ポリリー・ザトラウスキー Polly SZATROWSKI	77
近世期資料におけるト書きの史的研究 ——接続表現トの成立を中心に—— Study of Stage Directions in Modern Japanese: Research on the Conjunctive Usage of <i>to</i>	高谷由貴 TAKAYA Yuki	107

徳之島浅間方言のアクセント資料 (7)

Accent Data from the Asama Dialect in Tokunoshima, Amami: Part 7

上野善道

UWANO Zendo

129

時間的意味から空間的意味への意味変化の可能性

——「端境」の変遷を通して——

A Possible Semantic Change from a Temporal to a Spatial Meaning:

Changes in *bazakai*

山際 彰

YAMAGIWA Akira

157
